

平成 30 年度 第 2 回

太田市美術館・図書館運営委員会 摘録

◆日 時 平成 31 年 2 月 28 日（木）午前 10 時 00 分～

◆会 場 太田市美術館・図書館 3 階展示室

◆出席者

【委 員】 尾崎委員長、川上委員、杉浦委員、住友委員、森委員、花井委員
【事務局】 城代館長、空井館長補佐（管理係長）、富岡館長補佐（学芸係長）、
鹿山主任、星野主任、小金沢主任（学芸員）、町田主任（司書）

◆欠席者 鳥塚委員

◆議 題 ①2018 年度事業報告（中間）について
②2019 年度事業計画について
③その他

◆配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 委員名簿
- ・ （資料 1）2018 年度 事業報告（中間）
- ・ （別冊 1～5）各事業報告書
 - ①佐久市近代美術館コレクション＋「現代日本画へようこそ」
 - ②太田フォトスケッチ vol.3「祝」事業報告書
 - ③本と美術の展覧会 vol.2「ことばをながめる、ことばとあるく」
 - ④ものづくりシリーズ「愛でるボタン展～アイリスのボタンづくり～」
 - ⑤本でつながるイベント 2018
- ・ （資料 2）2019 年度 事業計画（案）
- ・ 太田まちなかめぐり事業（太田市広報課）

◆会議の内容

1. 開会

2. 挨拶

3. 運営委員会

(1) 議題

議題①「2018年度事業報告（中間）について」

事務局が資料に基づき説明を行った。

【委員】

図書購入費は現状足りているか。

【事務局】

今年度購入費 880 万円は十分な予算額であると捉えている。

【委員】

資料 1 ページ、視察受け入れのその他とは。

【事務局】

小中学校、特別支援学校、各種団体がそこに含まれている。

【委員】

学校からの視察に対してはどのような対応をしているか。

【事務局】

先方の依頼にあわせて説明を行うが、図書館をメインにすることが多い。簡単な説明をしたあと、施設見学を行っている。

【委員】

学校などの受け入れ態勢があることは館として大きな評価につながる。資料でもその他とするのではなく、学校のプログラムとして取り上げてもらえるようなアピールをしたほうがよい。

【委員】

現状、市内の小中学校では2年生の生活科で行う校外学習でこの館を利用することが多い。駅と公共施設を一度に体験できるメリットがある。広く蔵書も豊かな公共図書館は子どもの興味関心を引くものがある。また美術展も子どもたちの感性に触れるものがあり、一流のものを知るといって好評を得ている。

【委員】

開館より2年、来場者数も順調に推移しているようである。シリーズ化した美術展もあり館の独自性が出てきていることも良い点である。美術展は年間5本で有料展と無料展の回数もバランスがとれていると思うが、有料、無料の決定基準はあるのか。

【事務局】

「フォトスケッチ（写真展）」は当初から無料開催という方針で進めていた。ものづくりシリーズの「愛でるボタン展」は有料での開催も検討していたが、太田市のものづくり、産業を多くの人に知ってもらおうという広報の意義もあると考え無料とした。

【委員】

来場者からみると有料、無料の判断基準がわかりづらい。通常的美術館であれば収蔵作品展は無料など基準ができるが、ここは常設もないので、シリーズものごとに料金設定をするなどの工夫があったほうがよい。また前回の会議でも発言したがやはり年間5本の美術展の運営は多いように感じる。

【事務局】

詳細は議題②で説明させていただくが、来年度の美術展は年間4本で計画している。

【委員】

美術展の収支について図録製作費が安いように感じるが、印刷部数はどのくらいか。

【事務局】

おおむね各回1,000~1,500部である。製作方法としてはこちらで構成編集を行い印刷製本のみ発注するもの、出版社に製作を依頼するものと美術展ごとに異なる。

【委員】

美術展の看視業務について、文化振興事業費としての支出があるがこれは業務委託を行っているのか。

【事務局】

看視形態は美術展ごとに2種類あり、1つはボランティアスタッフで行う場合、この時は月に1回、一律の交通費を支給させていただく。もう1つが業者への業務委託で、現在開催中の「飯塚小玕齋展」の看視は業務委託で行っている。

【委員】

受付や看視は直接来場者と接する前線の人、館の顔ともいえる存在である。その人たちの対応が館の印象を決めることもある。今の形態だと来場者への対応方法や館の基本情報など共通認識を持つためのコミュニケーションが図れているのか不安が残る。

【事務局】

業務委託の場合は現場に入る前に業者側で事前研修を行っている。ボランティアスタッフには当館職員が作品の解説、来場者への対応方法など事前にレクチャーしているが、ボ

ランティアに臨む姿勢やモチベーションに一人ひとり温度差があるためどうしても対応にばらつきが出てしまう。

【委員】

受け答えの積み重ねが本人たちのスキルアップにつながるのももちろんであるが、育成する体制づくりも課題であると感じた。

【事務局】

ボランティア育成方法についてはぜひご助言をいただきたい。

【委員】

現状としてボランティアの協力を得ているのは美術展等の看視と読み聞かせが主だが、館の運営についてもあたることのできるボランティアを育成していくなどの計画はあるのか。

【事務局】

施設が手狭でボランティアが常駐できる場所の確保が困難な点も育成をすすめるにあたって大きな枷となっている。

【委員】

ボランティア育成の成功事例の一つとして「東京おもちゃ美術館」があげられると思う。この施設は有料でもボランティアをしたいという人を募り育成を行っているので、参考にされたい。

【委員】

途中から看視業務を業務委託で行うようになったのは、ボランティア参加者が少ない、集まりが悪いということか。

【事務局】

それも一つの要因である。

【委員】

支出における看視業務委託料の占める割合が大きいように感じる。また看視スタッフについて制服等は定めているのか。

【事務局】

看視業務委託料の支出業務委託で派遣されてくるスタッフは業者の指導により黒いスーツで統一している。ボランティアスタッフについては服装の定めはない。

【委員】

館の印象を決めるという点では、看視スタッフの制服というのがあるかもしれない。制服を着ることできちんとした研修を受け対応ができる人という印象を与える。しかし一方で制服は堅苦しく冷たいと感じ、むしろ私服のほうが地元の人と親しみを覚える人もいるだろう。美術展のアンケートでは看視スタッフについての項目も設けているのか。

【事務局】

設けていない。

【委員】

来館者にとって館の印象を決める重要なファクターの一つなので、ぜひ来館者アンケートで現状を把握してもらいたい。

「愛でるボタン展」のアンケート結果で入場料を支払ってもよかったという意見があったとのこと、美術展の評価として払いたいと感じたのだと思う。欧米の美術館では入館料の設定はなく、ドネーション（寄付）を受けるという手段を取っているところもある。市の会計上の課題もあると思うが、寄付を通じて自分たちのまちの美術館を皆で支えようという気風を培うこともできるのではないか。子どもたちに「自分も美術展の運営に参加した」という思いを持ってもらうことが、10年後、20年後に生きてくると考えている。

【事務局】

国内でも事例はあるのか。

【委員】

長野県上田市などが実施している。

【委員】

金額の多少ではなく、自分も参加したという意識が大切である。

【委員】

美術展の出口に寄付金箱を設けているところもある。

【委員】

本でつながるイベントはこの館独自のものと思うが、子どもたちも多く集まる中で、想定外だったこと、また課題として見えてきたことはあるか。

【事務局】

広報活動について効果が思ったように得られなかった。来場者からイベントが行われることを事前に知らなかった、気がつかなかったという意見を多くいただいた。また現場との連携、他事業との調整については特に課題が残る結果となった。

【委員】

図書館の事業として大事なイベントあるにも関わらず、美術展等と比べると目につきにくい。今年度の課題を活かし、ぜひ広報活動にも工夫を加えてもらいたい。

【委員】

アンケートの年代のとり方について、10代、20代、30代と年齢層で分けているが、同じ10代でも高校生と大学生では生活や行動が全く異なる。可能であれば中、高、大学などに分けて意見をとった方がよりの確な広報活動にもつながるのではないかと思った。またかたいと思われる企画であっても SNS で発信することで若い世代が興味持つこともある。高

校、大学生が最も好む情報収集のツールである SNS をいかに活用し見せていくかが新たな来館者の獲得のカギであると考えます。また他の施設などをフォローバックすることで情報の輪も広がると思う。

【委員長】

読書感想文の書き方ワークショップについて講師を務められた川上委員に所感を伺いたい。

【委員】

読書感想文の書き方指導は、市内の行政センターや図書館でも実施している事業である。通常は事前に本を指定し、全体に同じ感想文の指導を行うが、今回は試みとしてこの館の特色のある蔵書を活かし、子どもたちがここに来て本を選び、読んで、書くという形態で実施した。難しさもあったが館の特性を活かした事業となったと思う。

【委員長】

美術品の新規収蔵について、今回もこの運営委員会での報告をもって承認でよいのか。

【事務局】

前回の会議で収蔵資料審査のための専門者会議を設けたほうがよいとのご助言をいただいたが、今年度については未整備のため、ここで報告とさせていただきたい。

議題②「2019年度事業計画について」

事務局が資料に基づき説明を行った。

【委員】

館の基本方針にある若手芸術家の発掘支援について、現段階で具体的な方策はあるのか。

【事務局】

現状は未計画の状態、他館の事例を調査研究し進めていきたいが、まずは子どもたち向けの育成事業から検討いきたいと思う。ご提案があれば伺いたい。

【委員】

太田市出身者が知らないところで活躍している。それをここで紹介して顕在化していくことが大切、例えば市内の高校から美大へ進学した人の追跡調査などをして手がかりをつくっていくとよいのではないかと。

【委員長】

今後、調査の上進めていただきたい。

【委員】

通路側の書架の本が西日によりタイトルが消えるなど深刻な劣化をきたしていることを確認した。広範囲に及んでおり、また永続的に起こり得ることなので、早急な対応が必要であると思う。本来であればそこには本を設置すべきではないと自分は判断したが、建築

担当者に現状を伝え、速やかに対処を整えてもらいたい。また今後のためにも写真で記録を残していく必要がある。

【委員】

7月と来年1～2月に予定しているアーティスト・イン・レジデンスレクリエーションについて、大変評価が高いアーティストが来れるとのことで、他の施設によっては予算をとって実施をしているところもある。今回は先方からの依頼によるものか。

【事務局】

そのとおりである。当館としても趣旨に賛同し、ホールを無償貸出という形で協力をする。

【委員】

この企画に関連してなにか計画している事業はあるか。

【事務局】

ワークショップもしくは公開制作など市民が参加できる事業の提案を予定している。

【委員】

この企画は内容的に若い世代が特に興味を持つと思う。人材育成も兼ねて高校生を中心に積極的に接点を作ってみてほしい。若い世代の将来に大きな影響を与えたいと思う。またアート業界的にも話題になるアイテムだと思うのでぜひこの機会を活用してもらいたい。

【委員】

まちじゅう図書館についても関心を持ってきている。現在は41件だが、もっと活性化するには目標設定をするのもよいと思う。「図書館のまち」と呼ばれるよう、まちじゅう図書館数で日本一になるなど。まちじゅう図書館が盛んな場所はどこかお伺いしたい。

【委員】

北海道恵庭市が50件程、また行政主導だが三重県四日市市は99件と聞いている。

【委員】

「まちじゅう図書館100」など、まちの人のモチベーションを上げるために目標設定することには効果があると思う。同じ目標を持つことで参加者同士のネットワークを築くこともできる。

【委員】

他の複合施設ではセクションごとの交流がないところもある。図書館と美術館が連携を取るための仕組みはどのようにしているのか。

【事務局】

月に1回連絡調整会議を行っている。施設管理、広報担当、美術館担当、図書館担当からそれぞれ代表者が出席している。また美術館担当と図書館担当は同じ学芸係に所属しているので密な連携は可能である。現場の図書スタッフと図書館担当者はそれとは別に月に1

回全体会議を行っているが、そこには美術館担当などは参加していない。

【委員】

連絡調整会議にも図書スタッフが入った方がよい。岐阜の図書館ではチーフが全体の会議に参加している。後日内容を伝えるより、直接聞いてもらった方がよい。現場が館全体の運営を知る機会をつくった方がよいと感じた。

【事務局】

図書スタッフと事務方で連携がうまく取れていない部分はある。

【委員】

図書館は現場のスタッフに支えられて成り立つものであり、いかにパイプをつくっていくかがどの図書館でも課題となっている。3年目を迎えるにあたりぜひ改善を検討されたい。

【委員】

ボランティア会や委託業者など関わる人たちすべてが揃って会議を行っている事例もある。それぞれの代表者が会議の内容を自分の組織に伝える。結果、全員が共通認識を持つことが可能となり、それが力となっている。

【委員】

上が何を考えているかわからない、それが現場の不満につながる。

【委員】

仕組みをつくるのは大変だが、それが今後の力となる。

【委員】

2019年度の看視体制について、ボランティア対応と業者委託どちらになるか、それぞれの美術展ごとに教えていただきたい。

【事務局】

本と美術の展覧会 vol.3 とイタリア・ポローニャ国際絵本原画展は業者へ委託、太田フォトスケッチ vol.4 と太田の美術 vol.3 はボランティアを予定している。

【委員】

図書スタッフのための研修は設けられているのか。秋には毎年図書館総合展があるが、臨時職員の立場だとなかなか外の研修に参加することができない。年に2、3回必ず館内研修を実施するなどしてスタッフが学ぶ機会を増やしてもらいたい。県の図書館協会の研修を活用するのもよいと思う。図書スタッフの教育には積極的に取り組んでいただきたい。

【委員】

図書館と美術館の連携といえばこの太田市美術館・図書館の名がどこにいても筆頭にあげられる。現場のスタッフやボランティアにもそういった生の声を聴く機会があるといいと思う。セルフイメージが上がり、やりがいにつながる。図書スタッフにとって有益な研修となると具体的にどのようなものか。

【委員】

接遇は重要である。図書館のスタッフは往々にして自分たちはサービス業であるという意識が低くなりがちである。また書架の演出方法やまた基本の図書館学も有効である。

【委員】

書架の関連については県内でも研修が可能である。また自身も他の図書館を利用することがあるが、人によって対応が様々であり、時には冷たいと感じることもあった。やはり会議の冒頭から出ているように館の印象を担うという点で接遇については重要であると実感している。

【委員】

優秀な他館の職員を講師として招いてディスカッションするだけでも効果的であると思う。

【委員】

研修ももちろん重要だが、事務方との接触を増やし何でも言い合える環境づくりも必要であると感じた。職員側から積極的に交流を図ってもらいたい。

【委員】

読書感想文ワークショップに関連して、武蔵野美術大学ではレポートの書き方、本の探し方のワークショップを実施している。勉強につながる事がこのおしゃれなスポットでできるとなると、中・高校生など大いに若い世代のニーズがあると思う。

議題③「その他」

事務局が太田市広報課主催で当館が会場となった「太田まちなかめぐり事業」について資料に基づき説明を行った。

【委員長】

質疑のないようなので以上で終了とする。皆さまの貴重なご意見にあらためてお礼を申し上げます。今後とも美術館・図書館の運営にご協力をお願いしたい。

4. 開会